

第2期北本市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

第2期 北本市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

基本目標 1

稼ぐ産業と安定した雇用を創出する

基本目標 2

新しい人の流れとつながりをつくる

基本目標 3

若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

基本目標 4

ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

横断的な目標 1

・ 多様な人材の活躍を推進する

横断的な目標 2

・ 新しい時代の流れを力にする

基本目標 1 新しい人の流れとつながりをつくる

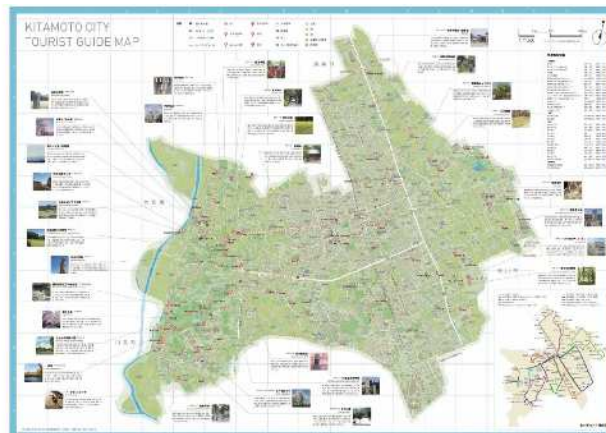
利便性と安らぎを兼ね備えた魅力的な住環境を整備する

- ・東京近郊の市街地内に雑木林が数多く存在し、身近に緑が豊富に存在します。
- ・令和2年10月のSUUMO首都圏版にて『災害に強い街』として一都三県(東

京、神奈川、埼玉、千葉)184自治体の中で**第3位**となり、土砂災害や洪水のリスクの低さが評価されています。この強みを生かし、さらに安全で快適な住環境を整備していきます。

緑被率

50%



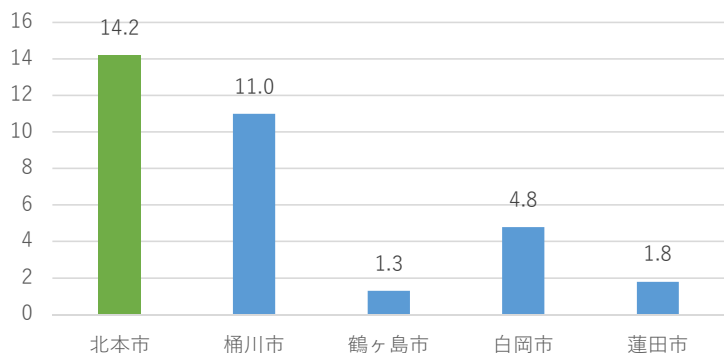
基本目標 1 新しい人の流れとつながりをつくる

その魅力を広く発信していくことで、本市を訪れたい、住み続けたいと希望する人を増やし、その実現を支援します。

北本市は、同規模自治体と比較して、グリコピアイーストや新しくなった農業ふれあいセンター、自然観察公園などの観光資源により、人口千人あたりの観光入込客数が多い強みがあります。多数のツールを使いながら、市内外にその広く魅力を発信し、北本市への関心を高めます。

単位:人

人口千人あたり観光入込客数



・北本市公式Instagram



・北本市公式YouTube



・北本市広報(市民リポーター)



基本目標 1 新しい人の流れとつながりをつくる

本市と継続的に多様な形で関わる「関係人口」の創出・拡大に取り組むとともに、企業や個人による地方への寄附・投資等により地方創生の取組への積極的な関与を促します。

緑豊かなまちの魅力を共につくり、支える担い手の育成や支援を行います。また、減少が見込まれる市税収入の一方、ふるさと納税の金額は増加傾向にあります。個人や企業の寄附が充実する取組を続けることで、地域への投資を呼び込みます。

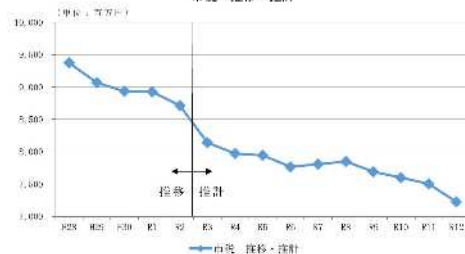
暮らしの魅力を見直し、高める研究会



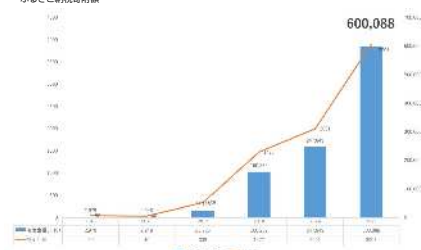
「市内プロジェクトチーム」



市税 推移・推計



ふるさと納税寄附額

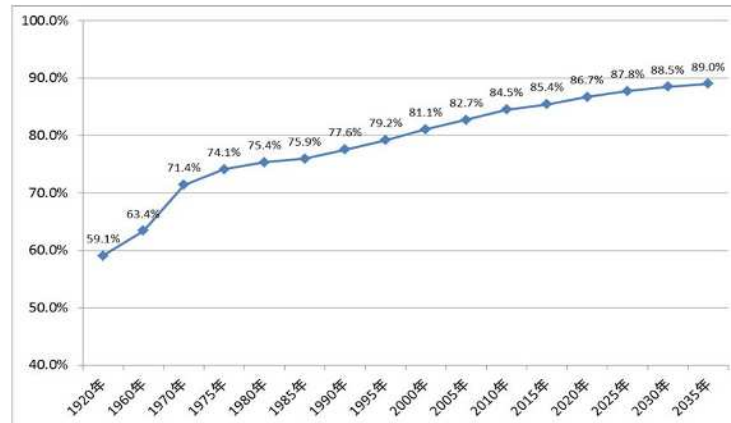


基本目標 2 若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

妊娠期からの切れ目のない包括的な支援やきめ細かな子育てサポート

核家族化の進行や、少子化に伴う子育て世帯の減少、共働き世帯の増加などにより地域とのつながりが希薄化し、妊娠・出産及び子育てに係る妊産婦の方の不安が増加しています。支援を通じ、出産しやすく子育てしやすい環境の整備に取り組めます。

核家族化の推移



出典：総務省

【世帯構成の推移】

(単位：世帯)

区分	H12	H17	H22	H27
一般世帯数	23,454	24,819	25,847	26,822
うち核家族世帯	17,161	17,881	18,035	18,088
(割合)	(73.2%)	(72.0%)	(69.8%)	(67.4%)
うち単身世帯	3,756	4,428	5,464	6,710
(割合)	(16.0%)	(17.8%)	(21.1%)	(25.0%)
うち高齢単身者世帯	769	1,196	1,835	2,765
(割合)	(20.5%)	(27.0%)	(33.6%)	(41.2%)

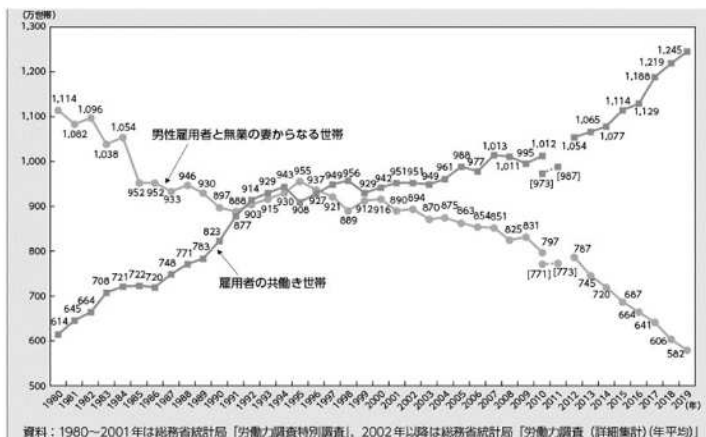
出典：国勢調査

基本目標 2 若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

仕事と子育てが両立しやすい環境整備

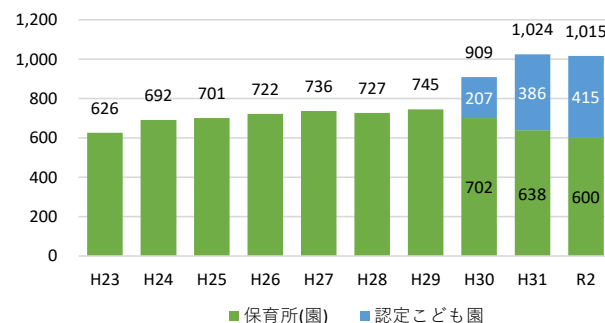
共働き世帯の増加や、幼児教育・保育が令和元年10月から無償化されたことに伴い、働く人が増加しています。このため、利便性と質を求める保育ニーズが高まっています。北本市でも教育と保育を共に行う認定こども園の利用件数が増加しています。保育ニーズに対応し、子育てしやすい環境づくりを進めます。

共働き世帯の推移



出典：厚生労働省

(人) 保育所(園)・認定こども園入所者数（各年4月1日）



出典：北本の統計

基本目標3 ヒトが集い、支え合う地域をつくり、市民の暮らしを守る

地域の特色ある資源を最大限に活かし、地域の活性化と魅力向上を図るとともに、多様な交流活動を促進します

北本市には市街地に雑木林が数多く存在し、令和元年4月12日には埼玉県内で初めて森林セラピー基地として認定されるなど、シティプロモーションのコンセプトである「&green」に象徴される緑豊かな自然があります。多様な自然や施設を生かした活動を支援することで市民の交流を促進します。

&greenプロジェクト あなたのやってみたいを応援します。



- ・北本発のアウトドアブランドを創設
- ・雑木林マップを作りたい
- ・北本の緑を活かした音楽イベント
- ・石戸城跡地周辺を舞台とした桜の植樹プロジェクト
- ・北本トマトクリーム復刻版の開発販売や、ポンテローザトマトの生産加工販売などを行いたい！

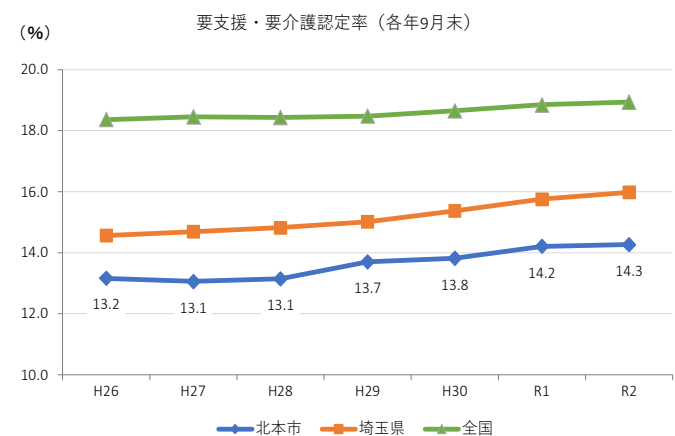
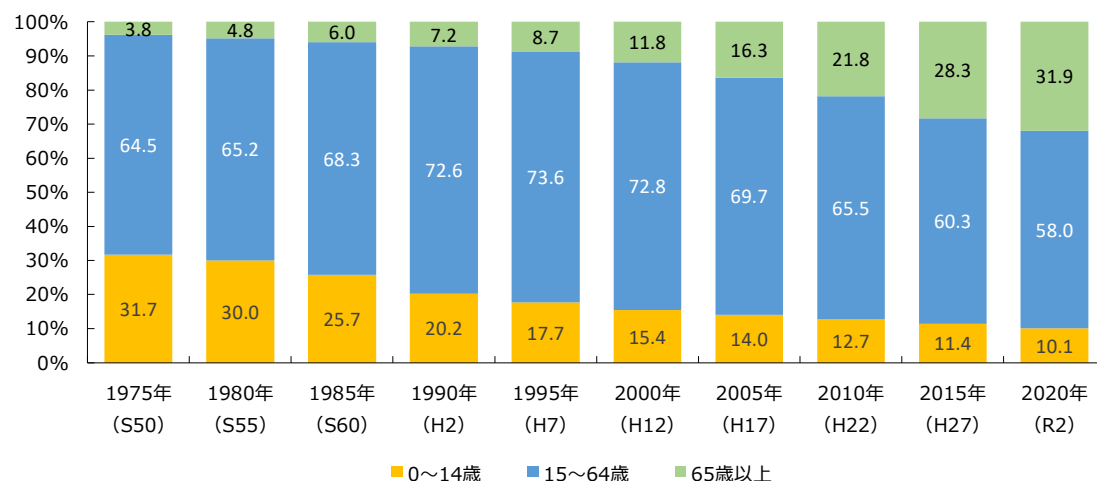
etc



基本目標3 ひとが集い、支え合う地域をつくり、市民の暮らしを守る

医療・福祉サービス等の機能を確保しつつ、ともに支え合う地域社会づくりを推進する。

令和2年には市民の31.9%が65歳以上であり、市民の約3人に1人が高齢者という状況になっています。高齢や病気となっても地域の活動に参加しながら生活することができる地域社会づくりに取り組みます。

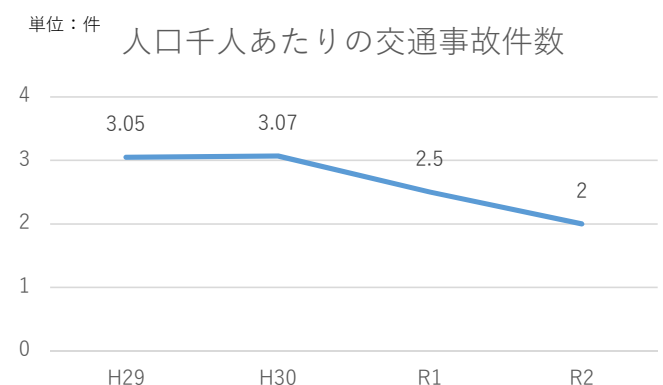
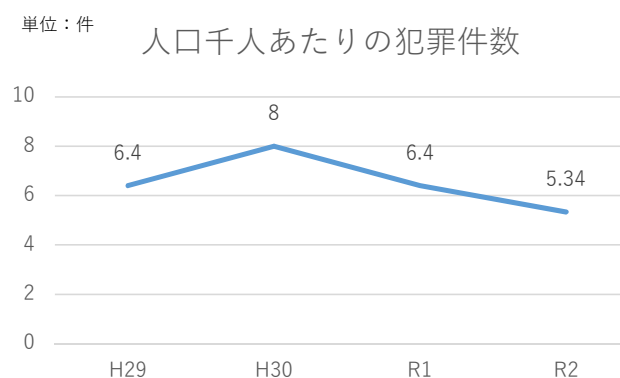
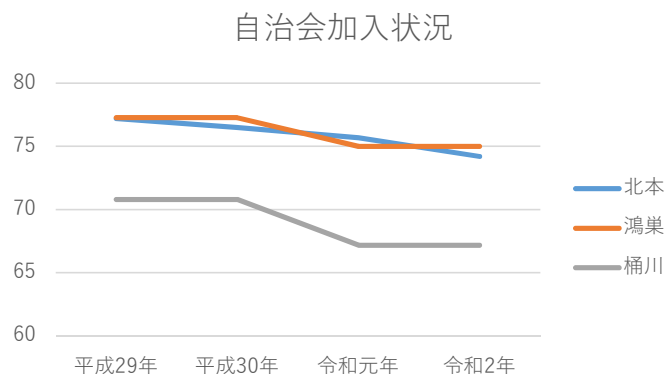


出典：介護保険事業状況報告

基本目標3 ひとが集い、支え合う地域をつくり、市民の暮らしを守る

地域における防災・減災や地域の防犯・交通安全の確保を図ります。

- ・北本市の強みは大宮台地上の最高点に位置し、SUUMO首都圏版で第3位と認められた災害の起きにくさです。
- ・単身世帯の増加や核家族化の進行により、集団の結びつきが希薄化しています。東日本大震災では町内会等の地域団体の活動により二次被害を防いだ事例等を踏まえ、ソフト面の整備に取り組めます。

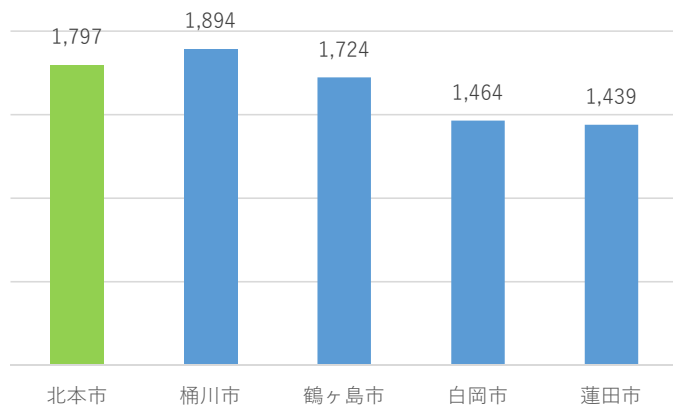


基本目標 4 稼ぐ産業と安定した雇用を創出する

産業の振興や企業の競争力強化を図るとともに、域内で経済の好循環がなされる地域産業の構築を推進

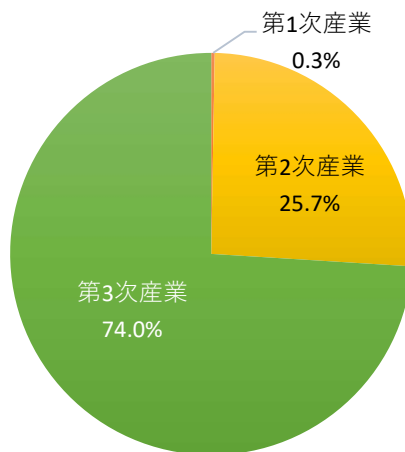
- ・北本市の総生産額は近年増加傾向にありましたが新型コロナウイルス感染症の影響により減少が懸念されています。
- ・市内の産業は第三次産業が74%を占めていますが、市の所得のうち34.4%が市外に流出していることから、市内で材料・サービス等を調達できる仕組みづくりに取り組みます。

人口千人あたり商業年間商品販売額（卸売業・小売業合計）



単位：百万円

市内総生産額の産業別構成比（H30）



■ 第1次産業 ■ 第2次産業 ■ 第3次産業

出典：埼玉県市町村民経済計算

【地域経済循環図（H27）】



出典：地域経済分析システム（RESAS：リーサス）

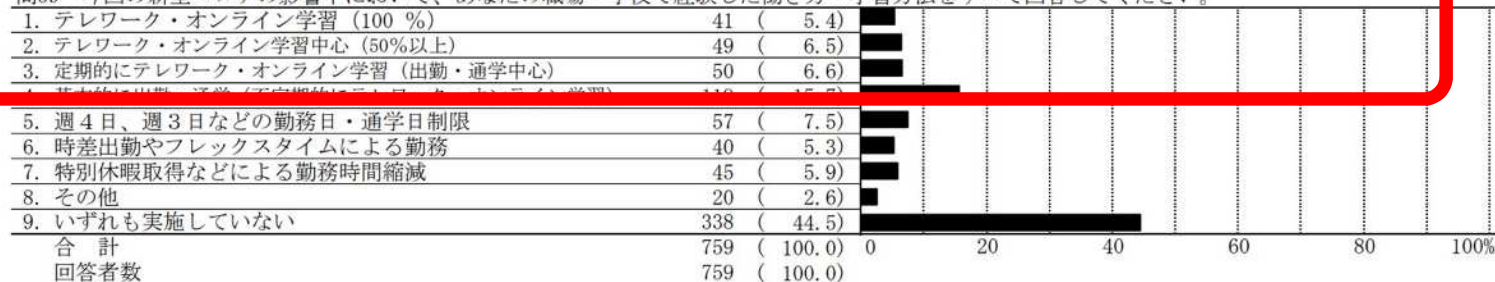
基本目標 4 稼ぐ産業と安定した雇用を創出する

就労環境の整備を促進するなど、若者にとって魅力的な仕事の場の創出を図ります。

民間企業が令和3年度に卒業予定の学生に行ったアンケートによれば、リモート環境の充実を前提として、57.8%の学生が地元での就労を希望し、5年ぶりに地元企業への就職希望者が増加に転じたとしています。

北本市の市内アンケート調査でもコロナ禍において2割近い市民が定期的にリモート環境で就労・就学する状況に変わったと回答しているところであり、こうした就労環境の整備を促進することで、地域の安定した雇用の創出に取り組みます。また、働き方改革の促進を支援し、若者に魅力的な雇用の場の創出と拡大に取り組みます。

問59 今回の新型コロナの影響下において、あなたの職場・学校で経験した働き方・学習方法をすべて回答してください。



横断的な目標 1 多様な人材の活躍を推進する

多様な主体が活躍できる環境づくりを積極的に進めます

人権に配慮し、誰もが活躍できるような地域社会をつくることで、多様性を育みます。様々な背景を持つ市民や地域団体、民間企業の参画等の多様な主体の活躍により、地域の課題を解決していく取組により地域に活力を生み出します。

TOP > 過去実績 > 地域を諦めないために。郊外団地商店街に、子供たちや若者が活躍できる居場所を作りたい。(地元若者が挑む 全国初 住宅付店舗のMUJI×URによる…

地域を諦めないために。郊外団地商店街に、子供たちや若者が活躍できる居場所を作りたい。(地元若者が挑む 全国初 住宅付店舗のMUJI×URによる地域活性化事業)

カテゴリー:まちづくり



食品計画

ニュースリリース 募金情報 支援情報 100% サステナビリティ 商品について 採用情報 ネットストア

「北本団地活性化プロジェクト」が始まりました。

埼玉県北本市にある「北本団地」は、全国初の住宅付店舗プロジェクトが実現しました。
「北本団地活性化プロジェクト」は、団地内にある既存店舗が老朽化し、地元若者が挑む全国初の住宅付店舗のMUJI×URによる地域活性化事業として、地元若者の挑戦、実現を目指して、北本市から支援を行っています。

「北本団地」は、総戸数2000戸を超える団地です。団地内には商業施設もありますが、高齢化や子育て世代の減少で寂れてしまっています。

※同、このプロジェクトの活動内容のうち、団地内の空き店舗は、地元若者が「シェアオフィス」や「カフェ」など、地元若者の居場所となる「新しい居場所」を創出する予定です。また、団地内にある既存店舗もMUJI×URによるリノベーションにより、新たな店舗として生まれ変わる予定です。



横断的な目標 1 多様な人材の活躍を推進する

誰もが活躍し、多様性に富む豊かな地域社会づくりを推進します

2015年に国連サミットにおいて全会一致により採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の設定した8つの優先課題のうち2つ(「あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現」および「平和と安全・安心社会の実現」)が含まれ、また、「誰一人取り残さない」というSDGsの基本理念とも密接に関わる取組です。この理念に基づき、性別や出身などで差別されない社会づくりを推進していきます。

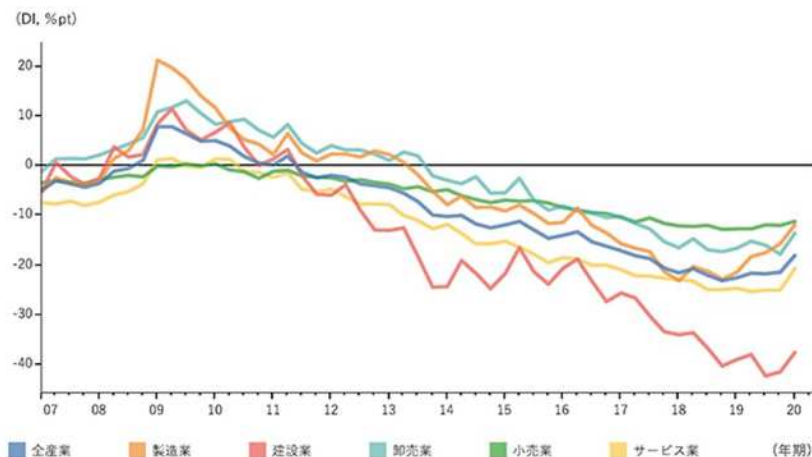


横断的な目標 2 新しい時代の流れを力にする

未来技術の活用により、地域課題の解決に加え、モノやサービスの生産性や利便性を飛躍的に高め、地域の魅力向上を図ります

人的資源の減少や、物理環境の不足などに対し、未来技術を有効に活用することが求められています。人工知能による自動化や、人間をサポートする未来技術の利用により地域の課題を解決していきます。

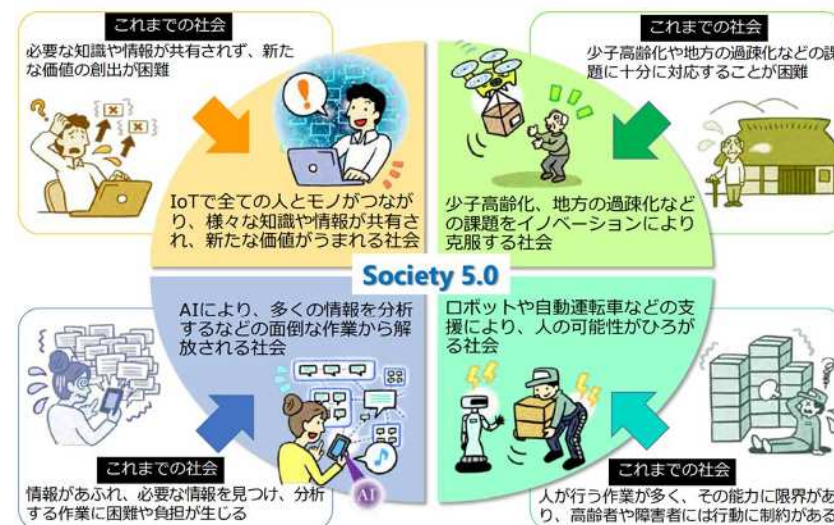
第1-1-35図 業種別従業員過不足DIの推移



資料：中小企業庁・(独)中小企業基盤整備機構「中小企業景況調査」

(注)従業員数過不足数DIとは、従業員の今期の状況について、「過剰」と答えた企業の割合(%)から、「不足」と答えた企業の割合(%)を引いたもの。

出典：中小企業庁



横断的な目標 2 新しい時代の流れを力にする

SDGsを原動力とした地方創生を推進します

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された「令和12(2030)年までに、誰一人取り残さない持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標」のことです。

17のゴールと169のターゲットから構成され、発展途上国のみならず先進国自身に取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

北本市においてもこの目標を積極的に取り入れ、持続可能な地方創生に取り組みます。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



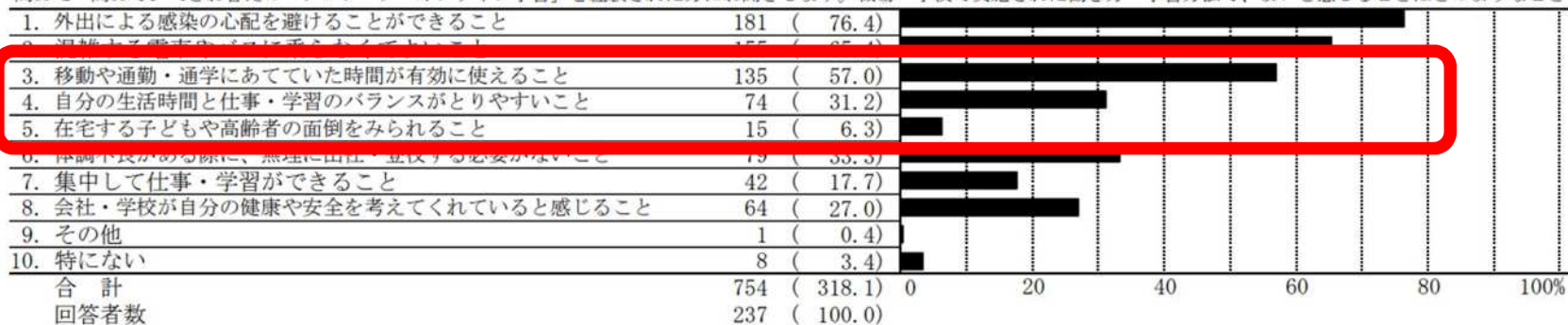
横断的な目標 2 新しい時代の流れを力にする

行動変容や新しい生活様式を踏まえた人の流れや仕事の創出を図ります

新型コロナウイルス感染症の影響により、リモート環境での就労が急速に浸透しています。この働き方は、職住近接の実現による通勤時間の削減のみならず、育児や介護、障がい等の個々の事情に合わせた就労と生活の調和の実現に有効な働き方として注目を集めることになりました。

北本市においてもアンケートを実施したところテレワークを経験した市民のうち、6割を超える利用者が通勤・通学の不便さがなくなったことを利点としています。また、3割を超える利用者が生活と就労・学習のバランスが取りやすいと回答しています。このように個々の事情に合わせた就労が可能なテレワークやコワーキングスペースの活用を支援します。

問59-2 問59で1～4とお答えの「テレワーク・オンライン学習」を経験された方にお聞きます。職場・学校で実施された働き方・学習方法で、よいと感じることはどのようなことですか。



令和2年度まちづくり市民アンケートより抜粋